

2016年版開発協力白書「G7伊勢志摩サミットと開発協力大綱」 ＜主要なポイント＞

第Ⅰ部第1章 G7議長国としての日本の取組

●持続可能な開発目標(SDGs)

G7伊勢志摩サミットにてSDGsを達成するとのコミットメントを確認。日本は、総理を本部長とするSDGs推進本部を設置、SDGs実施指針を決定。

●開発と格差・貧困の是正

絶対的貧困の撲滅は基本的な開発課題。日本はアフリカにおいて初となるTICAD(TICADVI)をケニアで開催。

●難民・移民問題を含む人道支援

難民問題を地球規模課題と認識。日本は難民受入国と難民双方に裨益する二国間支援を一層拡充。

●日本がリードしたアジェンダ

質の高いインフラ投資、女性のエンパワーメント、国際保健。

第Ⅰ部第2章 開発協力大綱の下での一年を振り返る

●開発協力大綱とは？

重要な外交手段であるODAを戦略的に活用し、積極的平和主義の立場から、国際社会の平和・安定・繁栄への貢献を通じ、国益にも寄与。軍事的用途回避の原則を遵守しつつ、軍等に対する非軍事目的の開発協力に関する方針を明確化。「人間の安全保障」は日本の開発協力の基本方針の一つ。

●質の高い成長に向けた取組

アジアを始めとする各国・地域の膨大なインフラ需要に応えつつ、質の高いインフラ整備を通じた質の高い成長を促進。

●人材育成

人材育成は経済成長や貧困問題の解決に不可欠。日本はABEイニシアティブ2.0やイノベーティブ・アジア等で貢献。

●平和で安全な社会の実現と地球規模課題への取組

法の支配、自由で開かれたインド太平洋戦略、中東安定化支援、気候変動・地球規模問題対策、テロ対策支援。

●多様なアクターとの連携による開発協力

開発協力における民間企業やNGOなどの役割が増大。多様なアクターの取組をODAがつなぎ、相乗効果によって大きな開発効果を期待。

●国際協力事業関係者の安全確保

ダッカ襲撃テロ事件を受け、新たな安全対策を着実に実施。

第Ⅱ部 2016年の開発協力(実績等を中心に記述)

●日本のODA実績と国際比較、課題別・地域別の具体的取組など

第Ⅲ部 資料編